

## 斎藤歓之助の碑

斎藤歓之助（1833–1898）は、剣の達人であり、大村家の家臣らを訓練した。歓之助は、現在の剣道の基礎となった、神道無念流剣術を修練した。

歓之助は、19 世紀における 3 人の偉大な剣の達人のうちの 1 人とされている剣の達人である斎藤弥九郎の三男として江戸（現在の東京）で生まれた。歓之助は、若いころから、父の道場で修練をはじめた。歓之助は、10 代のとき、相手を弱めることができる有効推力を編み出した。歓之助は、17 歳の時、道場に練習試合に来た長州藩（現在の山口県）出身の武士団をひとりで負かしたと言われた。

1850 年代の始めに、大村家最後の藩主である大村純熙（1830–1882）は、斎藤家の剣の腕前に感銘を受け、歓之助に、家臣を指導するよう要請した。歓之助はまた、藩主の護衛長に任命された。それから 6 年を経て、歓之助は、神道無念流により大村家の武士を訓練した。歓之助の剣の腕前と集約された訓練法から、「鬼歓」という異名を得た。

歓之助は、生涯にわたり、1,000 人以上の武士を訓練したとみられている。彼の門下生の多くは、徳川幕府軍と、大政奉還を求める者たちとの間の戦いである戊辰戦争（1868–1869）で戦った。大村家など、明治天皇（1852–1912）の援軍は勝利し、幕府統治は終焉した。

大村家でのおよそ 40 年の暮らしを送った後、歓之助は体調を悪くし、東京に戻り、1898 年にそこで死去した。歓之助の門下生や大村家の人たちにより、その教えに対する感謝の意として、玖島城に記念碑が建てられた。